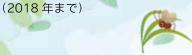
少年団のあゆみ ~たくさんの人に支えられています~

● 1992 年 近江八幡市緑の少年団設立

● 1994 年 ~ ス<mark>ズム</mark>シの放虫開始



● 1999年~

フナの稚魚放流開始

協力:沖島漁業協同組合 近江八幡漁業協同組合



▶ 2004年~

カヌー体験開始

協力:ポレポレ25



● 2005年~

タケノコ掘り開始

協力:八幡山の景観を良くする会



● 2015年~

西の湖ヨシ灯り展へ出品開始 協力:安士まちづくり協議会



● 2017 年

近江八幡駅南口花壇に モニュメント設置

近江八幡ロータリークラブから寄贈

● 2023 年

結成 30 周年記念 活動報告と展示会

私たちを紹介します

誕生日

平成4 (1992) 年 4 月 26 日



近江八幡市緑の少年団

きっかけ

宅地化が進み、緑が少なくなっていることから、緑を守ろうと 近江八幡ロータリークラブの協力で設立された近江八幡市緑の少 年団。市内の各小学校から合わせて 45 人が入団しました。

設立日には、児童公園に桜の苗木を植樹し、緑の募金活動から 始めました。

今していること

学習活動や体験活動、近江八幡駅南口花壇の管理など、地元の人の協力を得ながら、さまざまな緑化活動を行っています。現在の団員数は12人で、小学生から中学生までが活動中です。 ※親子での参加も可能です。



~自然と触れ合う3つの活動~

ボランティア活動

花壇の手入れ、植樹、緑の 募金活動や、緑化フェアなど

のイベントへの参加など

レクリ<mark>エーショ</mark>ン_{活動}

カヌ<mark>ー体験などの楽</mark>しい活 動を通じ<mark>て、協調と</mark>団結、自 主性を高めています。

学習:千動

森で<mark>の学習、植物や</mark>野鳥の 観察会、<mark>シイタケ栽培</mark>などの 森づくり体験など

毎月

花壇の手入れ(ちょボラ)をしています

-ちょボラとは?-

「ちょっとしたボランティア」の略称で、私たちにできるボランティア活動は何かを考え、「花壇の手入れ」を毎月行っています。

日時 第2 土曜日 午前9時~10時ごろ

場所 近江八幡駅南口花壇

それぞれの活動紹介E、宏のペー智へGO I



近紅八幡の

緑曾多少年团

申・問 農業振興課 ℡(36)5514・麻(46)5320・岬 20410



森林学習や体験活動、植樹、駅前の花壇の手入れなどを行っている「緑の少年団」。自然体験や地域の人との交流を通じて、「緑を守ること」の大切さを学んでいます。今回は、昨年で30周年を迎えた「緑の少年団」のあゆみを紹介します。

緑の少年団とは?

緑の少年団は、昭和35年に「国土緑化推進委員会(現在の(公社)国土緑化推進機構)」が、グリーン・スカウトの名称で少年団をつくるよう呼びかけたのが始まりです。

緑の少年団は、「緑を愛し守り育て、愛する心を育む」ことを目的に、学習会や体験活動のほか、いろいろな活動を行っています。

団員数は、全国で 30 万人以上!!





広報おうみはちまん 2024.2.1 **ム報おうみはちまん** 2024.2.1 **4**

≈私たちがおすすめする≈

自然小小あい体験を紹介します











緑の慕金



駅前の花だんを味いたしたり 花を植えたり、草木の整理をしたりしてまれ

月パコのボイ持てが象あるのでかないです。 公共の場にご母を捨ていのはやめてください。 一協力をよろしくお願いします。

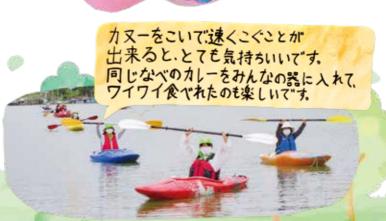
ベンチや花壇に たばこの吸い殻を 捨てないで!



花壇の多人化。 植え替え(ちょボラ)



多年/司韫引



カヌー体験



の稚魚をびわ湖に放流 ました.きびしいかん 境に負けず く育ってほしいです

稚魚の放流

※緑と水の関わりが深いため、水環境活動にも取り組んでいます。

団員・指導員を募集しています!!



活動期間 毎年4月から翌年3月までの1年間 年会費 1,200円(保険料含みます) 詳しくは農業振興課までお問い合わせください。

3月までには、4つの活動を予定しています♪

・ヨシ刈り ・活動交流会 ・植樹 ・ちょボラ

数形画の題で目を知り B



30 周年を記念して

活動をまとめた団員手作りポスターの展示と、工作体験を行いました!



工作体験コーナー



団員手作りのポスター展

- 団長の川橋 袖子さんから-

初代団長(故木村隆司さん)を中心に、指導者や市の児童 代表メンバーが集まり、現在の自主参加に移行しています。

私は設立当初から所属していますが、30年も続けるとは 思っていませんでした。子どもたちはもちろん、指導員、保 護者の協力がなければ続けられなかったと思います。これか らも頑張っていきます。

広報おうみはちまん 2024.2.1 広報おうみはちまん 2024.2.1